

# こうみょう

第13号（臨時号）

この如来は光明なり。光明は智慧なり。

智慧はひかりのかたちなり。

親鸞聖人著作『一念多念文意』

令和という、新しい時代を迎えました。

どんな時代になっていくのでしょうか？ 期待よりも先に、不安なことばかりが頭をよぎります。少子高齢化・いじめ・虐待・政治不信・外交・過疎過密問題・AI・格差社会・などなど、挙げていったらきりがありません。皆さんにもそれぞれ、気になることがあると思います。

元号が替わろうとも、おそらく、私たちの日常生活にはたいして変わりないようにも思えます。

元号が替わったことに大きな期待を抱くことなく、しかし、不安なことには正面から向き合い、ただご本尊を中心に、一日一日を大切に生きていきたいと思えます。

さて、今回は臨時号ということですが、4月7日に執り行われた「帰敬式」のご報告をさせていただきます。

法名をいただくということは、人生の態度決定です。今のいのちを生きて往くためには、何を中心にするべきなのか、そのことはとても大切なことなのだと思います。

「念仏申す生活」とはどのような生活なのでしょう。これからも共に確かめ合ってまいりたいと思います。



亀戸天神の藤とスカイツリー

第13号（臨時号）

2019年5月1日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

メールアドレス：

koumyouji@sky.plala.or.jp

# 真宗門徒入門講座（帰敬式）報告

4月7日の日曜日、花まつり法要の午前中に、「帰敬式」を執行いたしました。

光明寺では年に1回、お寺で「帰敬式」を執り行っています。「帰敬式」とは、法名をいただく儀式です。本来は、真宗大谷派のご門首（親鸞聖人の子孫）が執り行う儀式なのですが、1996年に執行権が住職にも認められ、各お寺で「帰敬式」を執り行うことができるようになりました。

それまでは、本山や別院で、ご門首が執行していたのですが、一人でも多くの方に法名を名告っていただきたいとの願いから、各お寺でも「帰敬式」を執行し、法名を授与することができるようになりました。

本山では、毎日「帰敬式」を執行していて、願い出ればその日に受式することができません。しかし、光明寺では、「真宗門徒入門講座」として、事前に3回のお勉強会に参加していただいて、そのうえで「帰敬式」を受式していただくことにしています。

なぜ、そんなに手間のかかることをするのかと言いますと、法名をいただくということの大切な意味を確かめていただきたいからなのです。

法名を、生きている今いただくということは、私たちが、生きるために法名をいただくということです。生きて往くうえで、大切な名告りとなるのです。

それは、お一人お一人が仏の教えをよりどころにして、中心にして、今を生きて往くという選びをするということです。

そのことを共に確か合っていたくために、「念仏申す生活を」というテーマのもと、「礼拝の生活」「聞法の生活」「正信の生活」という、3回のお勉強会があります。

来年も1月から「真宗門徒入門講座」を開催し、「帰敬式」を受式していただく機会を設けますので、一人でも多くの方と法名を名告ることの意味を確かめ合いたいと思います。



帰敬式の当日、お仕事の都合で欠席された方も、後日改めて受式いただきました。



## 受式された方よりの感想をいただきました

齋藤益子さん 釋尼益蓮

昨年、母が亡くなったことがきっかけで、今回の帰敬式で法名をいただきましたと思ひ、受式しました。

母の法名から一文字いただき、大変うれしく思っています。

本来にありがとうございました。今後も、教えを聞く場に身を運ぼうと思ひます。

辰野道代さん 釋尼明通

厳肅な雰囲気の様でびっくりしました。

3回講義を受講し、4回目には、立派な法名を頂くことができ、誠に有難く思いました。今後は、法名と一緒に日々仏様にお参りしたいと思ひます。

辰野一郎さん 釋一誓

この度の帰敬式へは、家内が参加をしたことと、正直なところ、その意向に付られたような状況でした。

ただ、実際に参加し、ご法話を拝聴するにつれ、本当に参加して良かったと、本日改めて痛感している次第です。

本日以降、門徒として生活していく所存であります。

中澤清さん 釋唯清

この門徒の講座に入れてもらひ、聞くのはじめてなもので、ただ頭下げて…。

このような深い意味があるとは思ひていなかった。もう少し勉強したいと思ひます。

中澤和子さん 釋尼和慶

この度は、入門講座に参加させていただき、仏様に対しての向き合い方が大きく変わりました。

あまりにも知らないことばかりで、これからは、時間の許すかぎり、勉強していききたいと思ひます。ありがとうございました。

高野真治さん 釋眞證 後日受式

年号が平成から令和になって2日目に帰敬式を受けることになり、心持ち朝から緊張気味でした。阿弥陀仏の御前にただ一人で座って、仏弟子となる誓いの辞を読み上げた時、心は宙をさまよっているようでした。今まで何度となく、大勢の前で挨拶をしなければならなかった時、始める前に「南無阿弥陀仏」と心の中で称えたり、仕事で行き詰った時など、お願いばかりしていたことを思うと、恥ずかしいばかりです。

今日、ここに釋眞證と法名を頂きました。大変うれしく思ひます。これからの生活において頂いた法名を大切に、その時その時を過ごして往きたいと思ひます。

南無阿弥陀仏・・・礼拝

## 花まつり法要 報告

4月7日の「帰敬式」の後、午後からは「花まつり法要」が開催されました。

お釈迦さまのご誕生と、親鸞聖人のご誕生、そして、帰敬式を受式された新たな仏弟子のご誕生をお祝いし、法要を勤修いたしました。人として生まれた釋迦族の王子さまが、なぜ出家をし、仏陀となられたのか、その意味を、法話でお話しさせていただきました。

私たちは、人として生まれ、仏に成るいのちを生きているのですね。



お焼香の代わりに、花御堂のお釈迦さまに甘茶をかけていただきました。お子さんも参加されていて、一緒に「正信偈」をお勤めいたしました。

## 仏事について…ごんが知りたい!

### 献杯について

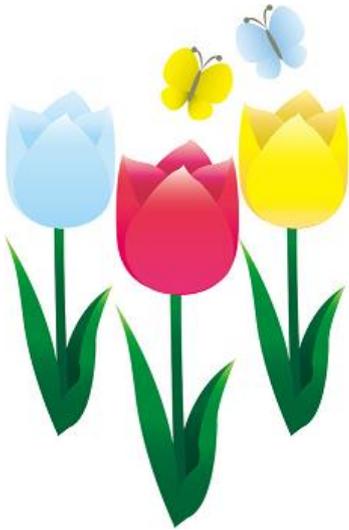
葬儀や法事の際のお齋で「献杯」を行うことは、仏教の儀式では、ありません。

元々は、神事で行われていたようですが、仏事の際のお齋のあいさつでも、行われるようになってきたようです。

「乾杯」を謹み、静かに「献杯」をするようになってきたのかもしれませんが、そもそも、コップに入った飲み物をささげるような所作は、仏事では必要ありません。

ましてや、故人にささげるといってお気持ちがあるのなら、亡くなった方を仏さまとしていただく仏事においては、仏の教えから外れてしまう所作になります。

一同手を合わせ、静かに「いただきます」と唱和し、お齋を始めてください。



## 第2回終活セミナーのご案内

5月28日(火)の14時から16時、お寺で「終活セミナー」を開催します。

「終活」とは、死にゆくための準備ではありません。やがて終わりを迎える私の人生に向き合い、心配なことを整理し、今のいのちを安心して生きて往(ゆ)くための活動です。元気に過ごしている今のうちから、少しずつ不安なことを確かめて、整理をして、大切な一日一日を安心して生きていきましょう。

そのためには、どのようなことを準備していけばよいのでしょうか。お寺という場所で、ご一緒に考えてみませんか？

2回目の今回は、「認知症の基礎知識とサポート体制について」と、「保険・年金・相続について」の、2つのセミナーを行います。

もしも、連れ合いやご家族が認知症になっても、江東区には安心して相談できる窓口とサポート体制があります。

また、現代は人生100年時代と言われますが、80歳を過ぎてからの経済的な不安について、保険という視点からお話しいたできます。

おまけで、「仏教の終活」についてもお話しいたします。

参加費は無料です。どなたでもご参加いただけますので、ぜひ、この機会に「終活」について考えてみませんか？

**参加希望の方は、お寺までご連絡ください。**

日時…5月28日(火) 14時から16時

会場…光明寺本堂もしくは客殿

第1部…14時10分

「安心して生きるための、認知症の基礎知識とサポート体制について」

海辺長寿サポートセンター

村川 泰司 さん

江東区社会福祉協議会

鶴岡 紘輔 さん

第2部…15時

「安心して生きるための、保険・年金、そして相続について」

マニュアル生命保険株式会社

藤山 正行 さん

質疑応答…15時30分

自由に質問していただく時間です。

おまけ…15時50分

「仏教の終活について」

光明寺住職 小林 尚樹

閉会予定…16時ころ